

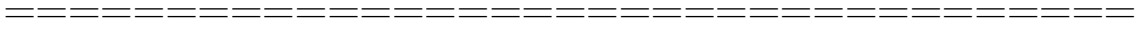


電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2021年度 No.2)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2021 (第 20 回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2021 開催のご案内
- ◆2022 年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HIP 研究会)
- ◆研究会活動紹介 (ICB 研究会)



FIT2021 (第 20 回情報科学技術フォーラム) 開催のご報告

企画幹事  
三浦貴大 (産総研)

8 月 25 日(水)～27 日(金)にかけて、第 20 回情報科学技術フォーラム FIT2021 が、オンライン上で開催されました。本フォーラムは、電子情報通信学会(ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)、情報・システムソサイエティ(ISS))と情報処理学会(IPSJ)が共同して実施しております。新たな発表形式を積極的に導入しており、多彩な企画・タイムリーな情報発信に加え、活気ある議論・討論、他分野研究者間の交流を実現する場となっています。

昨年度に引き続き、2021 年度もオンライン開催となりましたが、例年に劣らない盛況ぶりとなりました。特に、FIT2019 より新設された「トップコンファレンスセッション」では 7 セッション・41 件の発表が行われました。具体的には、アルゴリズムとデータベース、インタラクションとモバイル、コンピューティングとアーキテクチャ、ソフトウェアシステム、コンピュータグラフィックスと信号、教育学習支援とマルチメディア、ネットワークとセキュリティの 7 分野に関するトップ国際学会・論文誌に採択された研究について、筆者ご自身から日本語でご紹介いただきました。この際、数名の研究者は、採択に至るまでの体験記の他、トップ国際学会に通すための戦略についても述べられていました。筆者個人は、村上 隆夫氏(産総研)が述べていた「トップ会議に通すためには準トップの成果が鍵となる」という話が心に残りました。

また、情報技術分野における顕著な業績に対して贈られる FIT2021 船井業績賞を受賞される Sheree K. Nayer 氏(Columbia University)による受賞記念講演「Computational Cameras for Humans and Machines」も行われました。Nayer 氏は、多くの日本のコンピュータビジョン領域の研究者との共同研究を実施した旨を述べており、インド、アメリカ、そして日本での経験が今の研究に生きていると講演されていました。

他にも多くのイベント企画セッションがあり、各分野の最新情報を得られる場が展開されていました。この中でも、筆者個人は「IoT が拓く未来：～アフターコロナ社会に向けた IoT の将来像を探る～」を興味深く拝聴しました。本セッションは JST さきがけ「IoT が拓く未来」の採択者による発表で構成されており、IoT に関する様々な課題解決に向けた最先端の研究群および展望を短い時間で堪能できるものでした。

他にも、15分野 475件の一般発表が行われました。セッションごとに FIT 奨賞(座長が優秀な発表を1件選定)が授与され、59名が受賞していました。

次回は、2022年9月13日(火)～15日(木)に慶應義塾大学の矢上キャンパスで開催予定となっています。是非お問い合わせの上で、ご発表・ご参加のほどをご検討下さい。

#### 参考情報

- ・FIT2021 ウェブサイト : <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2021/>
- ・FIT2022 ウェブサイト : <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

---

#### HCG シンポジウム 2021 開催のご案内

企画幹事  
瀬古俊一 (NTT)

HCG シンポジウムは今年度で 19 回目を迎えます。シンポジウムの特徴として、工学分野に加え、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学、デザイン学、生理学の分野に精通する関係者も集め、活発な議論の場を提供しております。また、今年は文化人類学に関するチュートリアル講演も行うなど、より幅広い視野を得られる企画なども検討しております。

コロナ禍には人々の自然なコミュニケーションが制限され、社会の危機を招き、社会の在り方も大きく変わりました。新たな時代において、ヒューマンコミュニケーション技術は非常に重要な役割を果たします。ヒューマンコミュニケーション技術は、人々がより信頼しあえる社会の構築を支えていけるよう一緒に考えていきましょう。

今回もコロナ禍の影響から去年と同様にオンライン開催となります。積極的にご参加いただき会を盛り上げていただければ幸いです。

#### HCG シンポジウム 2021

新様式でかわりゆく・かわらないヒューマンコミュニケーション

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2021/>

【会場】 オンライン (Zoom, oVice, Slack 等による発表)

【会期】 2021年12月15日(水)～2021年12月17日(金)

#### 【企画】

- ・招待講演：藤田 欣也 (東京農工大学大学院工学研究院先端情報科学部門)
- ・チュートリアル講演：伊藤 泰信 (北陸先端科学技術大学院大学)
- ・特集テーマセッション：
  - ・ソーシャルインタラクション
  - ・視覚障害者支援
  - ・食メディア
  - ・ロケーションインフォマティクス)
- ・特別企画セッション：
  - ・デザイン学会と連携した企画

---

2022 年総合大会投稿のご案内

企画幹事  
三浦貴大（産総研）

---

2022 年 電子情報通信学会 総合大会の開催についてお知らせいたします。概要は次の通りです：

- ・会期：2022 年 3 月 15 日(火)～18 日(金)
- ・会場：新潟大学（新潟市）
- ・講演申込：2021 年 11 月 5 日(金)～2022 年 1 月 5 日(水)
- ・スローガン：持続可能な未来を拓く電子情報通信

最新情報に関しては、以下ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.ieice-taikai.jp/2022general/jpn/>

※2021/09/27(月)段階では、まだ未公開。

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。特に総合大会は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)に加えて、学会を構成する 5 つのソサイエティ（基礎・境界、NOLTA、通信、エレクトロニクス、情報・システム）が一堂に会して実施します。

COVID-19 の流行のために過去 2 年間は中止またはオンライン開催となりましたが、2022 年総合大会では 3 年ぶりの現地開催を目指しています。特に、3 月 17 日(木)に行われるプレナリーセッションにおいては、2 つの基調講演が予定されています。まずは「新潟大学「日本酒学」の挑戦(仮)」について新潟大学日本酒学センター長・教授の鈴木 一史 氏からご講演いただくと共に、「リモートセンシングによる地球環境計測」を新潟大学名誉教授・自然科学系フェローの山口 芳雄 氏よりご講話を頂きます。これらに加え、学術奨励賞表彰・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式が行われます。

総合大会では例年、一般セッションの他にも多数の企画セッションが開催され、今大会においても 34 件の企画セッション、10 件の公募シンポジウムセッションが提案されております。また、公募セッションにおいては例年 1500 件を超える発表がなされており、まさに電子情報通信分野を概観できる国内最大級の学会です。ぜひこの機会に、皆様お誘い合わせの上、ご参加のほどお願い申し上げます。

---

研究会活動紹介（HIP 研究会）

HIP 運営委員長  
坂本修一（東北大）

---

ヒューマン情報処理研究専門委員会（HIP）は、人間の感覚情報処理に関わる基礎から応用までの幅広いテーマで、研究活動を発表する場を設けています。主な発表の場は年 6 回開催される通常の研究会で、他の学会や研究会と共催しつつ実施しています。これまでは、北は北海道、南は沖縄まで様々な場所で開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020 年度以降全てオンラインでの開催となりました。移動の必要がないからか、各回の参加者は 2019 年以前に比べ増加傾向にある一方で、休憩中などのざっくばらんな意見交換がしづらいといった声も聞かれ、2022 年度にはオンライン開催と現地開

催のよさを生かした新しい形で実施できればと思っています。

本研究会が対象とする研究領域は、心理学、工学、脳科学、生理学、情報学、社会学などと密接に関連します。この学際性の高い分野全体をカバーすべく、単に人間の感覚情報処理過程を科学的に明らかにする研究だけでなく、その知見を生かした新しいインタフェース技術やバーチャルリアリティ技術に関する研究も広く受け入れる懐の深さが特徴と自負しています。その一方で、年間 6 回行われる研究会では、この懐の深さを生かしつつ、各回で独自の特徴を持たせたテーマも設定しています。例えば 2021 年度は、「眼球運動」や「感性情報処理」といったテーマで研究会を実施するほか、「顔・身体学」や「生涯学」といったテーマでも関連する方々との共催で研究会を計画してきました。

研究会とともに、FIT や HCG シンポジウム、電子情報通信学会総合大会でも、関連する研究分野を対象とした企画セッションを HIP として提案、実施してきました。例えば 2017 年には「インターネットは心理学研究に FIT するか？」と銘打ったイベント企画を FIT2017 にて実施しました。昨今の状況を考えると（そうあって欲しくなかった部分はありますが）来るべき時代を見越したものだだと思います。あいにく 2021 年度は表立った企画の実施はなかったのですが、もしみなさんの方でこれらの大会等で HIP の企画として何かご提案がございましたら、HIP の各委員までご連絡をいただきたいと思います。

なお、開催される各研究会での発表募集は下記のホームページで随時アナウンスを行っています。

ヒューマン情報処理研究専門委員会（HIP）のホームページ：  
<https://www.ieice.org/~hip/index.html>

---

## 研究会活動紹介（ICB 研究会）

ICB 専門委員長  
柏岡秀紀（情報通信研究機構）

---

情報の認知と行動研究会（ICB）は、2014 年に、旧先端医科学技術時限研究専門委員会（AMS）及び旧人間と ICT 倫理研究専門委員会（EHI）を統合し設立された研究会です。その興味は、医療を発端としていますが、健康・生活分野の占める割合が広くなり、最近ではサステナビリティやまちづくりも視野に入れています。ICB は、近年、著しく進捗した最新の脳機能および生体情報計測技術を利用し、情報の認知から行動に至る機構を脳科学に基づき科学的に解明することを目的としています。また、その上で、得られた成果を医療福祉領域に活用するのみにとどまらず、日常生活の中で提示される様々な情報から適切な行動をとるための仕組みを考察し、適切で効果的な情報提示や運用あり方、しくみを考えていきます。

ここ数年は、年 1 回のシンポジウム、年数回のワークショップを基本として活動を続けています。2015 年、2016 年は、脳神経科学、人工知能といった話題を中心としたシンポジウムを開催しました。2017 年には、内閣官房 IT 総合戦略室及び健康・医療戦略室の参事官を招き、次世代医療情報基盤をテーマとしたシンポジウムを開催しました。2018 年は、ソーシャルコミュニケーションにおける行動から健康や情動を推測する手法をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

最近の ICB では、少人数での研究会を行い、新たな研究を創成するためのイ

ンキュベーション的活動を重視しています。コロナ禍で、委員を中心とした発表や集まってディスカッションを行う機会は減りましたが、ヒトの行動に関わるデータを安全に管理するための ID とその運用体制に関する研究、行動の把握による健康や住環境のサステナビリティを維持するためのまちづくりに関する研究など、研究会で新たに扱うテーマが生まれ、研究会を活発化させる準備を進めています。

今後、隔月で委員によるワークショップの開催を中心に、情報の認知、意思決定、行動にいたる機構を脳科学に基づき科学的に解明すると共に、日常生活において有効な生活環境を構築するための情報表現等に関わる研究開発や規格策定に関して、活発に議論を進め、広く活動を行っていきます。他の研究会との接点も多くあり、ICB 単独の活動だけでなく、連携した研究活動も活発に進めていきたいと思えます。

=====  
ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、  
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。

-----  
□■□  
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ  
Copyright (c) 2021 IEICE, All Rights Reserved.  
□■□  
-----

☆e-mail による情報配信を必要としない方は、その旨 [henkou@ieice.org](mailto:henkou@ieice.org) まで  
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に 1 ヶ月程度かかりますので、入れ  
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。  
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの  
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、  
[henkou@ieice.org](mailto:henkou@ieice.org) までご連絡下さい。)  
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice  
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部  
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659